

創立80周年を迎えて

アスカ工業株式会社

取締役社長 天野 卓

風薫る好季節を迎え、皆様にはますますご健勝のことと心よりお喜びを申し上げます。

さて、昭和17年に祖父天野半三が鈴鹿福太郎氏、梶川勇太郎氏と共にココロの網株式会社として発足し、その後3名の頭文字をとって改名したアスカ工業株式会社は、お陰様で本年80周年を迎えることができました。

振り返りますと、激動の昭和と共に歩み、平成の世に生まれ、令和のこの時代に「傘寿」を迎えることができましたのも、お取引先各位の絶大なるご支援と、ご関係先各位の暖かいご指導の賜物と社員一同深く感謝申し上げます。

今日、400万トン規模の日本のアルミニウム地金総需要の約半分が輸入品を含め我々の関連するアルミニウム二次精錬分となりました。

こうした需要の伸びは、再生地金が新地金を生産するのに比べて約3%のエネルギーで済むなど省エネ面から大変注目され

ているからです。

一方、輸入に頼るアルミニウム新地金の原料であるボーキサイトの採掘にあたっては地球環境保護の観点から、採掘後は元通りの環境に戻すように要請されており、段々と困難を極めます。

アルミニウム二次合金の需要を支えてきた自動車産業は、100年に一度の変革期を

迎えています。アルミ製品による軽量化は二酸化炭素の排出量を抑え、地球温暖化現象の防止に大変貢献しております。

資源の乏しい日本において、リサイクル事業はますます重要性を増しています。軽量化基礎資材の供給責任を果たすとともに地球の資源を守る社会貢献型企業として、更なる品

質向上、省エネ工夫に取り組みながら、SDGs推進実践企業として、地域の皆様に愛されながら成長していきたいと思っております。

今後益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



日本アルミニウム合金協会 定 時 総 会 開 催

5 月 18 日 WEB 会 議

一般社団法人日本アルミニウム合金協会の第48回定時総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、5月18日にWEB会議で開催されました。

会 長 北山 悟 氏 (エスエスアルミ)
副会長 山本隆章 氏 (大紀アルミ)
副会長 香山昌志 氏 (日軽エムシーアルミ)
副会長 上田雄三 氏 (福岡アルミ)
事務理事 森本 興 氏

政府の最近の月例経済報告によれば、景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さが見られるとされております。

政府は、景気不振れリスクに十分注意しつつ、足元の経済の下支えを図るとともに、感染が再拡大している状況においても国民の暮らし、雇用や事業を守り抜き、景気の底割れを防ぐとともに、「新しい資本主義」を起動し、成長と分配の好循環を実現して経済を自律的な成長軌道に乗せていくとしております。

このような状況の中で、令和4年度は、感染症による影響の継続や金融資本市場の変動、ロシアのウクライナ侵攻など揺れ動く国際情勢の中で、アルミ二次合金の大手需要先である国内自動車メーカーには、長期化した半導体不足等による減産からの回復を期待している所です。

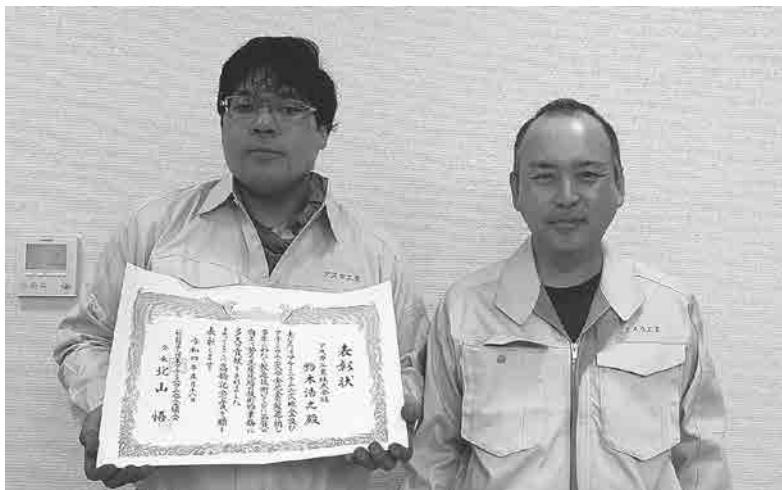
一方で、感染症の影響が発生する前より、アルミ二次合金の需要を支えてきた自動車産業は100年に一度の変革期を迎えるといわれ、今後自動車を構成する部品が大きく変わることが見込まれる中で、当業界においても、車体部品や足回り部品等への用途拡大の為の新たな材料開発などの取組みが重要となっております。

加えて、当業界には、国内アルミスクラップの海外への流出に対する懸念や産業廃棄物処理等の問題もありますが、重要基礎素材としての供給や資源循環を担う当業界の果たすべき役割と責任の重要性は揺るぎないものと確認しているところであります。

高 橋 記 念 賞

昭和54年(1979年)6月に発足した、高橋記念賞はアルミニウム合金地金・二次地金製造の技術向上、合理化などに創意工夫を通じて功労のあった現場の技術者に与えられます。

本年度は当社から鈴木浩之君を推薦、めでたく受賞しました。鈴木君は溶解担当として活躍、社員の信頼も厚く今回の受賞が決まりました。永田生産部部长もニコニコ。



高橋記念賞受賞者は鈴木浩之君 (写真左)

2021年度

アルミニウム二次地金・合金地金生産

70万トン台を回復

一般社団法人日本アルミニウム合金協会はこのほど2021年度（2021年4月～2022年3月）のアルミニウム二次地金と同合金の生産と出荷の実績を発表しました。

生産量は761,154トンで前年度比9.0%増加し、出荷量も770,533トンと前年度比9.0%増加し、70万トン台を回復しました。

令和3年度の日本経済は、持ち直しの動きが続いたものの、新型コロナウイルス感染症により厳しい状況が残る中で、一部に弱さが見られるとされております。

この様な経済環境の中で、アルミニウム産業界におきましても、感染症の影響からの回復により、アルミニウム製品総需要は2年ぶりに増加しましたが、400万トン台には至らない見込みとなっております。

当アルミニウム合金業界におきましても、アルミニウム二次合金の需要を支えてきた我が国自動車メーカーの生産が、感染症による影響からの回復の途上でありながら、半導体や部品供給の不足によって変調をきたし、下半期は鋳物・ダイカスト需要が低迷することとなりました。

アルミ二次地金・合金地金の生産と出荷

		2019年度	2020年度	2021年度
総	生産量	791,249 (-3.7)	697,999 (-11.8)	761,154 (+9.0)
総	出荷量	799,858 (-3.2)	706,965 (-11.6)	770,533 (+9.0)
部 門 別 出 荷 量	ダイカスト	436,047 (-5.5)	396,142 (-9.2)	421,886 (+6.5)
	鋳物	207,577 (-0.6)	178,787 (-13.9)	202,529 (+13.3)
	板	53,459 (-0.9)	52,657 (-1.5)	55,689 (+5.8)
	押出	21,410 (-0.9)	16,619 (-22.4)	16,739 (+0.7)
	鉄鋼	51,948 (+2.8)	37,385 (-28.0)	46,239 (+23.7)
	合金メーカー向	26,883 (-2.3)	23,549 (-12.4)	25,493 (+8.3)

(単位：トン、カッコ内は前年比パーセント)

休日のご案内

カーメーカーの世界的減産を受け、6月も生産調整を行います。尚、出荷業務は通常通りに行います。



仁吉 6月5日 源徳寺 まつり

義理と人情の世界に生きた男、吉良の仁吉をしのぶ「仁吉まつり」が6月5日(日曜日)西尾市吉良町上横須賀の源徳寺で催される。吉良音頭の総おどり大会はじめ地元物産展など多くのイベントが企画されている。

吉良の仁吉は江戸末期、伊勢の荒神山の決闘で穴太徳(あのおとく)と戦い、勝利を収めたものの銃弾を受けて死亡、28才であった。

多勢に無勢の不利の戦いをあえて買って出た背景は、一宿一飯の恩人神戸(かんべ)の長吉への熱い仁侠の心意気と伝えられ、源徳寺の墓は清水の次郎長により建立された。

源徳寺は名鉄西尾線上横須賀(かみよこすか)下車徒歩数分。左の立像は吉良図書館所蔵の吉良の仁吉。

社内情報

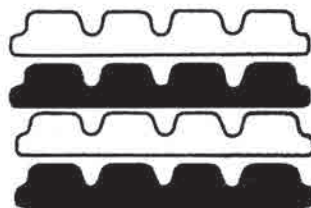
- ◎高橋記念賞の鈴木浩之さんおめでとうございます。今後の活躍を大いに期待します。
- ◎半導体不足、部品不足でカーメーカーの減産が続く中、引き続き生産調整を行いますので、ご協力の程よろしくお願い致します。
- ◎ご案内の通り、6月18日(土)80周年記念祝賀会を開催いたします。コロナ禍でどのような形で行えるか、実行委員会で模索中です。

編集後記

- ☐西三河地域に、農業・工業用水を供給している明治用水の取水口でトラブル発生。田植えの時期なので早期の回復が期待されます。アスカ工業の水源は異なりますし、冷却水は循環式なのでご安心下さい。
- ☐中国のゼロコロナ方針による主要都市ロックダウンの長期化で様々な産業に影響が出てきて心配です。
- ☐中部ダイカスト工業協同組合の第54回通常総会が5月23日に開催され、解散決議がなされました。

アルミ缶リサイクリング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)
アスカ工業株式会社

〒444-0303
愛知県西尾市中畑町卯新田上28
TEL <0563> 77-0500(代)
FAX <0563> 77-0501
<http://www.al-asuka.jp/>